
Microsoft Teams テナント移行ガイド

Microsoft からの人気のあるワークストリームコラボレーションアプリケーションは、Microsoft 365 への移行が進む中、急速にユーザーを獲得しています。利用が増え続けるにつれ、より広範囲におよぶテナント間移行シナリオの一環として Teams を移行する必要性も高まっています。BitTitan®によるこのホワイトペーパーでは、このワークロードのプロジェクトを成功させるために必要な移行前および移行後の考慮すべき事項の概要を説明します。

はじめに

2017 年にリリースされた Microsoft Teams は、広く活用されている Microsoft 365 で利用できる、共同作業を行うためのプラットフォームです。Microsoft Teams は、ビジネスにおけるコミュニケーションやインタラクション、情報共有の向上を目的に開発されました。Microsoft は 2020 年 4 月に、7,500 万人を超える 1 日のアクティブユーザー数を発表しました。これは、Microsoft の歴史の中で最も急速に成長しているビジネスアプリケーションのひとつであることを示しています。

Teams には、Microsoft365 の様々なアプリの機能が組み込まれています。Skype for Business に代わり音声通話・チャット・会議、SharePoint をベースとしたファイルの一元保存・管理といった機能があり、最終的には、現在の主要な社内コミュニケーションツールであるメールに取って代わる、という長期的な構想が描かれています。

IT の担当者にとって Teams の導入は、テナント間の移行プロジェクトに伴う移行作業が発生することを意味します。Teams と、そのベースとなる SharePoint のフレームワーク内に保存されているチャット、ドキュメント、知的財産等の機密情報は、Exchange Online からのメール、および OneDrive または SharePoint からのドキュメントと並行して、移行しなければならない重要な要素となりつつあります。

このホワイトペーパーでは、Teams を新たな Microsoft365 テナントへスムーズに移行させるために、移行前に検討すべき重要事項について概説します。

用語と構造

Teams の移行プロジェクトに関する説明に入る前に、Teams 環境の様々な構成要素を把握しておく必要があります。本ガイドで言及する主な用語は、以下の通りです。

- **チーム**：ユーザー、ファイル、チャンネルで構成される上位レベルのグループ。組織全体の環境には複数のチームが存在し、ユーザーは複数のチームに属している場合もある。
- **チャンネル**：各チーム内での、スレッド型のチャットとファイル・フォルダを含む個別のセクション。チャンネルには、パブリックとプライベートの2つのタイプがある。
- **会話履歴**：チャンネルごとの一元的なディスカッション・スレッド。これには、同じテナント、または認証済テナント内のユーザー間による、プライベートまたはグループのチャットなどは含まれない。
- **プライベートチャット**：2人以上の個人間で直接送信されるメッセージ。これはチャンネル内のパブリックの会話とは区別される。
- **ユーザー権限**：各チームに対するユーザーのアクセスコントロールを含む、Teams 環境全体のガバナンス。
- **ファイル**：チームごとに SharePoint 上で、ドキュメントが保存される場所。各チャンネルにはサブフォルダがある。
- **タブ**：チャンネルに組み込まれており、Yammer、Planner、OneNote、Power BI など、他のアプリと連携してデータを引き出すことができる。

Microsoft Teams の概要については[こちら](#)をご参照ください（英語）。チームの基本的な構造は、以下の通りです。

Structure	Compare Path	Folder Type
Team 1	team 1	Contact/Group
└─▶ General Channel	team1/General	Conversation
└─▶ Channel 1	team1/Channel1	Conversation
└─▶ Channel 2	team1/Channel2	Conversation
└─▶ Shared Documents	team1/Shared Documents	DocumentFile
└─▶ Shared Document/General	team1/Shared Documents/General	DocumentFile
└─▶ Shared Document/Channel 1	team1/Shared Documents/Channel 1	DocumentFile
└─▶ Shared Document/Channel 2	team1/Shared Documents/Channel 2	DocumentFile

移行前にやっておくべきこと

Teams の移行プロジェクトでも、スムーズな移行を実現するカギは、プランニングにあります。Teams を新たな Office 365 テナントへ移行する際の重要な検討事項は、以下の通りです。

移行元の環境評価

どのような移行プロジェクトでも、何を移行すべきかを把握することが、最初のステップです。まずは、移行する必要があるチーム、チャンネル、ユーザー、ファイルが何かを検討することから始めましょう。

BitTitan は無料の [Voleer](#) の Microsoft Teams 評価へのアクセスを提供します。この評価では、Teams アクティビティ、ユーザー数、Teams 数、ゲストアクセス、および類似のチーム名を含む重要な Teams メトリックのレポートが生成されます。この評価の結果は、移行に先立って整理する領域を特定しながら、移行に関与するチームの数とデータの量を理解するのに役立ち、移行戦略に役立ちます。その評価の詳細については、[こちら](#)をご覧ください(英語)。

移行するチームの選択

MigrationWiz は、チームをプロジェクトに追加する 3 つの方法を提供します。個別チームの選択の詳細については[こちら](#)をご参照ください（英語）。

・オートディスカバー：ソーステナントを自動的にスキャンして、インスタンス内のすべてのチームを識別します。オートディスカバーが完了すると、ユーザーはすべてのチームをラインアイテムとしてプロジェクトに直接インポートするか、すべてのチームの CSV ファイルをダウンロードしてチームをさらに管理することができます。同じ CSV ファイルを一括追加でアップロードすることもできます。

・一括追加：より洗練されたマッピングを持つ大規模なプロジェクトに適したオプションです。MigrationWiz は、チームの追加を管理するための CSV テンプレートファイル、またはオートディスカバー作動中に作成されたものを使用するオプションを提供します。

・Quick Add：小規模プロジェクトまたは POC の場合、Quick Add を使用すると、CSV 管理なしで特定のチームを移行できます。

クリーンアップ

米調査会社 Gartner のクラウド・オフィスを担当するアナリストの話や BitTitan の経験に基づくと、Teams を初期段階から導入している組織ほど、Teams の環境が無秩序になり、スプロール現象（可視性や管理性が限界になっている状態）に陥っている傾向にあります。アクティブに利用されているチャンネルやチームの裏では、今ではほとんど使用されていなかったり、重複したりしているチャンネルもあります。古くなり使用されていないドキュメントだけでなく、当初利用時のビジネスニーズやガバナンスポリシーが、現在では変更されている場合もあります。

Voleer での移行元の評価時や移行の実行前は、チーム、チャンネル、チャンネルに保存されているファイルをクリーンアップするのに、最適な時期です。クリーンアップにより、より秩序立った合理的な移行先環境の整備が可能になり、それに伴って移行プロセスも簡素化されます。

名前付けポリシーの対立を特定

Teams の移行プロジェクトで最も一般的に見られる問題点は、移行元と移行先間の名前付けポリシーに関するものです。これは、チームの命名規則と個々のユーザーの両方に影響します。

ユーザー：デフォルトでは、ユーザープリンシパル名（UPN）のプレフィックスに基づいて、ソースから宛先へユーザーを照合します。たとえば、ユーザーの UPN が「name@domain.com」の場合、「name」の部分が一致します。宛先に同じプレフィックスを持つ複数の人がいる場合（例：name@domain1.com および name@domain2.com）、または宛先で特定のユーザーのプレフィックスが変更された場合（例：name@source.com → name.full@destination.com）の場合、詳細オプション UserMapping = "name@source.com-> full.name@destination.com" を使用して、各ユーザーに新しい名前または正しい名前を設定する必要があります。このオプションを追加する手順については、記事、[「プロジェクトまたは単一のアイテムにサポートオプションを追加するにはどうすればよいですか？」](#)

UserMapping コマンドは[サポートオプション]セクションにあり、マッピングが必要なユーザーごとに 1 行が必要になることに注意してください。+をクリックして、行を追加します。例の UPN アドレスを実際の UPN アドレスに置き換えます。

チーム：移行前の段階で、MigrationWiz ユーザーは移行前にチームをマップまたは名前変更できます。これで、移行元のチームメールニックネームに基づいて、TeamAwesome など、移行する特定のチームを追加できます。必要に応じてチームの名前を変更するなど、宛先でマッピングを選択できます。たとえば、TeamAwesome は宛先で TeamAwesome に、または TeamFantastic にマッピングできます。Destination に TeamFantastic が存在する場合、TeamAwesome のコンテンツが既存の TeamFantastic にマージされます。Destination に TeamFantastic が存在しない場合は、TeamAwesome のデータを使用して作成されます。

移行項目の把握

Teams の移行への取り組みと現状の API 制限などを考慮した上で、何を移行するのか、移行先の環境上で何を直接作成・設定するのかを、把握しておくことが重要です。

MigrationWiz を使用すれば、IT 担当者は以下の項目を移行することができます。

- チーム
- ユーザー権限
- チャンネル
- ファイル
- 会話履歴

MigrationWiz は、デフォルトではチーム内のプライベートチャンネルを移行しないことに注意してください。移行するプライベートチャンネルがある場合は、プロジェクトの詳細オプションのサポート

セクションに TeamsMigratePrivateChannel = 1 という行を追加して移行します。ユーザーは移行先のプライベートチャンネルには追加されないことに注意してください。これは、プライベートチャンネルの移行後に手動で行う必要があります。Microsoft の制限により、GCC High テナントのプライベートチャンネルは移行されません。

移行しない項目の決定

社内のチームメンバー、エンドユーザーと、移行しない項目を決定します。

- プライベートチャット：これまでのやり取りは、Teams ではなく、Exchange のメールボックスに保存されています。プライベートチャットは、メールボックスの移行プロジェクトの一環として、ユーザーと一緒に移行することができます。
- タブ：他のアプリとの連携は、移行先の環境で再設定する必要があります。Microsoft による Teams でのタブの追加方法に関する説明は[こちら](#)をご参照ください（英語）。
- リアクション：チャンネル内のチャットに表示されているリアクション（「いいね！」等）は移行されません。そのため、「いいね！」などのリアクションを承認手段として活用している組織の場合、コンプライアンス上の問題となり得ることがあります。

移行の可否に関する詳細情報は、[こちら（Teams の移行戦略ガイド）](#)をご参照ください（英語）。

エンドユーザーに対する連絡

エンドユーザーへの移行プロジェクトに関する通知と周知は、移行前プランニングにおける重要な最終段階です。[Osterman Research による 2018 年の調査（実施主体：BitTitan）](#)では、多くの MSP 事業者にとってデータ移行プロジェクトにおける最大の課題が、この最終段階にあることが分かりました。

スムーズな移行と移行後の問題を最低限に抑えるためには、移行作業中に計画されたダウンタイムに関する情報、ユーザーに求められる措置、または、単なる共有であっても移行に関する明確で的確な情報の提供が、重要となります。

Teams 移行に関するポイント

前述の、移行前段階での検討事項を踏まえて、以下のプランを策定する必要があります。

アプリケーションの権限

MigrationWiz は、フルコントロールのアクセス許可に加えて、サポートオプション UseApplicationPermission = 1 を使用することにより、Teams 移行の読み取り専用のアプリケーション アクセス許可をサポートするようになりました。この新しいアプリは、ReadOnly 権限を持ち、セキュリティを強化するためにソースでのみ使用でき、ドキュメントの権限はエクスポートしません。宛先のアクセス許可には、常に FullControl アクセス許可が必要です。

これにより、移行元と移行先でグローバル管理者またはサイトコレクション管理者の権限を使用しなくても、安全な移行が可能になります。

作業の順序

チームの移行では、メールボックスの移行プロジェクトと同様のステージ前のアプローチを利用することで、チームの移行も迅速化できることがわかりました。

1. 最初のパスでは、プロジェクトで選択したチームのチームとチャネル構造のみを移行します。これを Teams インスタンスの「足場」と呼び、後続のパスでユーザーとデータをガイドするのに役立ちます。また、このパスが正常に完了してから数時間待ってから、ステップ 2 に進むことをお勧めします。
2. 2 番目のパス（または複数のパス）では、チームの残りのコンテンツ（会話、チームの権限、ドキュメント、およびドキュメントの権限）を移行できます。

ドキュメントの権限と移行速度

Teams の移行で、チャネル内のファイルの権限は、チームから継承されるようデフォルトで設定されています。移行元のファイルの中には、複数のチーム間、または社外のパートナーと共有されているものもあることから、独自の権限（カスタムパーミッション）が設定されている場合があります。カスタムパーミッションが設定されているファイルは、ファイル・レベルで移行されるため、より多くの API 認証が必要となり、移行作業中のエラー発生の原因となる可能性が高まります。それを回避するためには、移行の開始時に移行項目を選択する画面で、ドキュメント・パーミッション（Document Permission）を解除し、移行後にカスタムパーミッションを再設定するよう、ユーザーに通知することをお勧めします。

移行先の環境に慣れるまで

チームに多くのユーザーが登録されている場合、移行に成功しても、移行先の環境で読み込みができないメンバーがいる場合があります。全てのユーザーが移行されたことを確認するには、Office 365 の管理ポータルから、移行されたグループ（チーム）で、表示されるユーザーリストをチェックしてみてください。

補足情報

移行に関する技術的な情報、およびガイドの詳細については、以下のリンクをご参照いただくか、[BitTitan のヘルプセンター](#)までご連絡ください。プロジェクトの実行を検討されている場合は、[BitTitan](#) にお問い合わせください。

- [Microsoft Teams End-to-End Migration Guide](#)
- [Demo: Microsoft Teams Migration with MigrationWiz](#)
- [Feature Spotlight: Microsoft Teams Migrations](#)

BitTitan®について

[BitTitan®](#)は、IT サービスを提供するプロフェッショナルに、オートメーション化されたクラウドテクノロジーを万全な形で運用・管理するソリューションを提供しています。[MigrationWiz®](#)は、業界をリードする SaaS ソリューションで、様々な企業・団体間で、メールボックス、ドキュメント、パブリックフォルダを移行することを可能にします。BitTitan は 2009 年以降、187 カ国の 4 万 3,000 社の顧客と 1,900 万人超のユーザーのデータをクラウドに移行させると共に、Microsoft、Amazon、Google、Dropbox を始めとする企業が提供する、主要なクラウドエコシステムをサポートしています。BitTitan は、シアトルとシンガポールに拠点を構え、グローバルに事業を展開しています。詳しくは www.BitTitan.com をご覧ください。